

共通の趣味、娯楽を持つ友人等との 情報交換システムの構築

政策情報学部 政策情報学科 4年


0840145

谷口雄大

結論

- ある一定のテーマに対して複数の相手と情報を共有することができるシステムを実現した。

背景と目的

- 人は多様性の海に生きている
 - そして、人の思想や趣味は文化の成熟とともに細分化され深化し、先鋭化し、多様化していく
 - マニア、マイナー、フェティッシュといったレッテルはすでに超越している
 - しかし、そのような状況で、情報が発信され、共有され、交換される場が少ない
 - アーティストの機材や音源などのリリース情報を共有できる場所が少ない
 - 大衆性の無いマイナーなアーティストについて語り合える場がない
- 
- 一定のテーマに対して情報を共有するシステムを実装し、上記の問題を解決する

既存の情報交換共有の仕組み例

- 2チャンネル
 - スレッドフロート型掲示板
 - カテゴリ→板→スレッド
- Mixi
 - コミュニティ
- Twitter
 - タグ
- ショッピングサイト
 - 価格.com
 - Amazon.co.jp
- ポータルサイト
 - Yahoo.co.jp
 - ディレクトリサービス

板やスレッドの作成は比較的自由だが、利用者が求める情報に到達しにくい

コミュニティの作成は自由にできるが、会員外に非公開の場合、わかりにくい

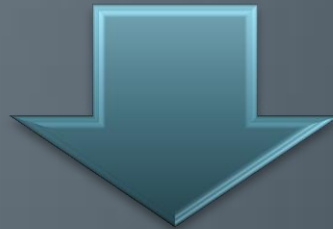
ツイートにタグを付けることで、分類情報を付加できるが、タグ情報だけでは判別しにくい

それぞれ、管理運営者によって分類があらかじめ決められている

管理運営者によって分類がツリー構造で決められている

問題点

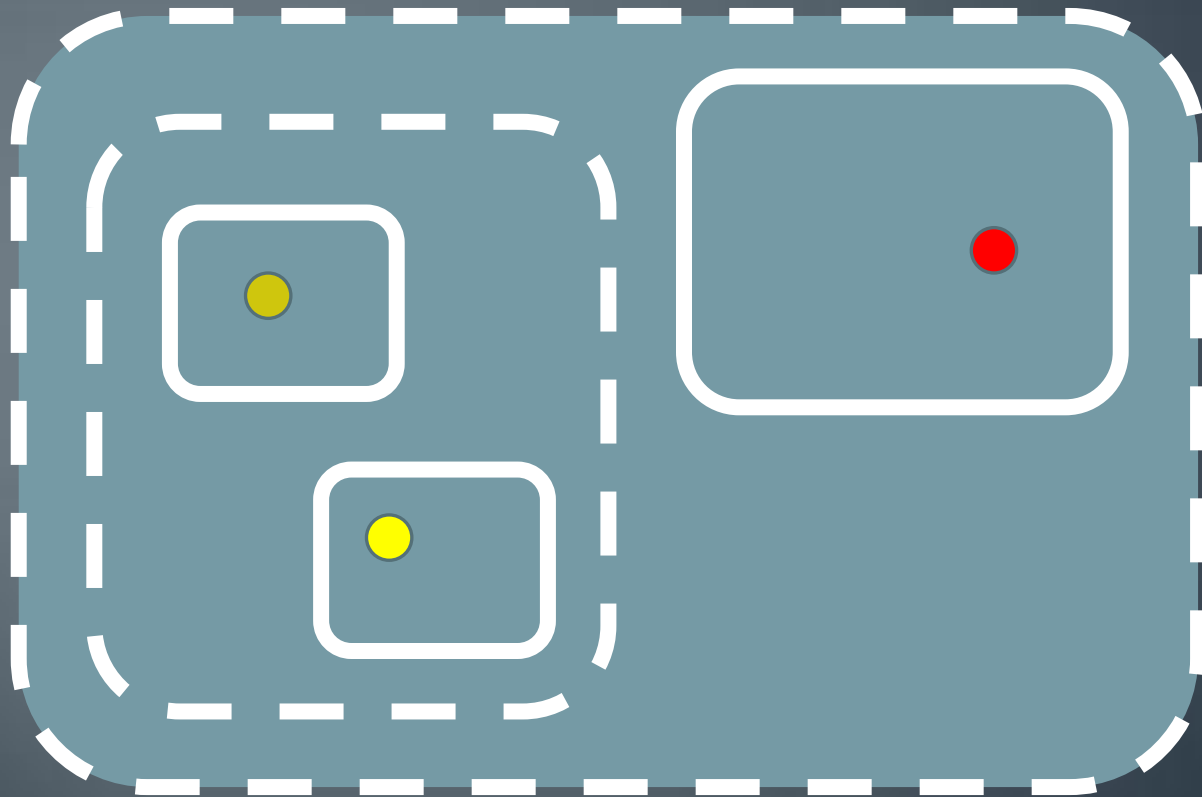
- ・ソーシャルネットワーキング上で批判意見を言い合える場が少ない
- ・ソーシャルネットワーキング上で出来た仲間との空気から批判を恐れて意見を言いにくい
- ・既存のサービスではジャンルの区分が大きすぎてよりその情報に特化した意見、情報を共有できるグループを作りにくい



- ・より深く、専門性の高い情報を得ることができ、思ったことを言えるような環境を実現することが必要だ。

情報とその分類情報

- 上位の分類との包含関係にある→ツリー構造での表現



この分類の名称を利用者が自由に作成できるとよい

解決法の検討

- 情報、コミュニティへのアクセスがアナログで情報を求めている人が欲しい情報を得られるようなシステムづくり。
- ツリー上にジャンル分けをし、コミュニティの細分化を行う
- ツリーのジャンル入力をユーザーに行ってもらいツリーの末端部分の情報を制限なく増やすことができる。
- コミュニティを細分化することで専門性の高い情報を得る、共有、討論ができる場を作る。



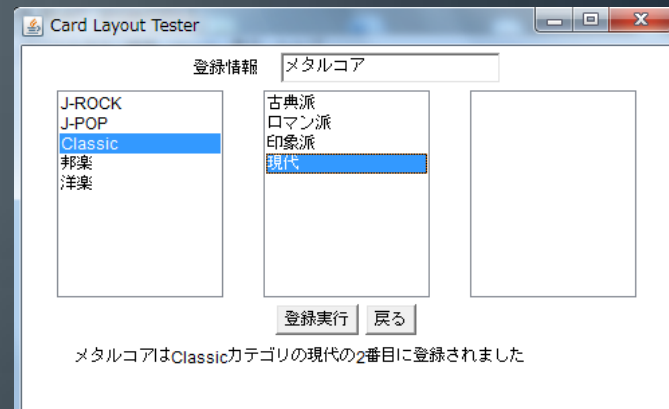
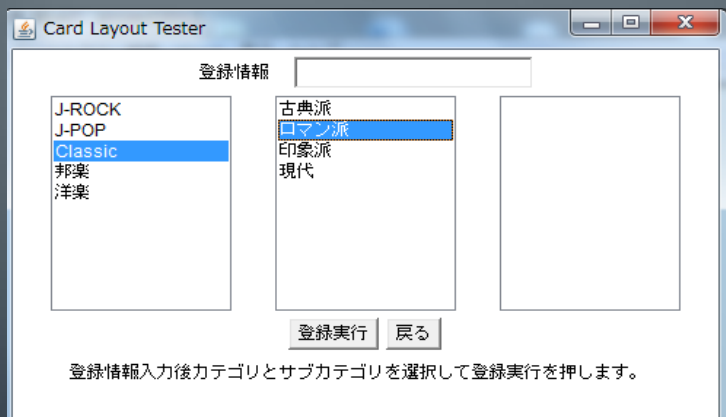
←ジャンルがツリー上に
広がっていくイメージ図

実装

- ソーシャルネットワーキングサービス内にジャンル分けの機能の設計、システムの実装を行う。
- ジャンル分けシステムを作る。細分化されたジャンルをユーザーが個々で登録できる。
- 構造は現状のソーシャルネットワーキングサービスと同じだが、ジャンル分けのシステムを加えることであたらしい仕組みのサービスをつくる

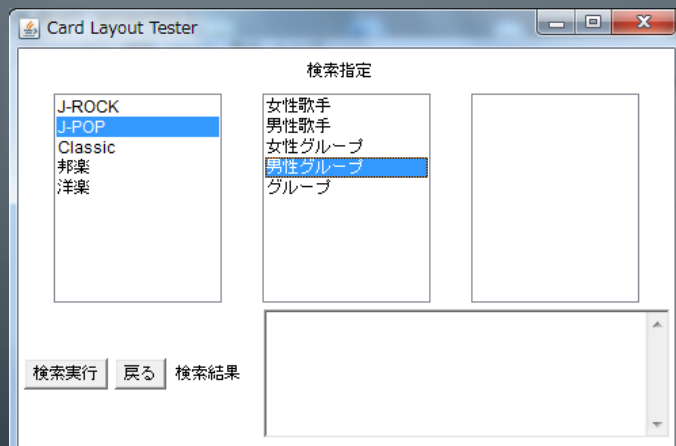


実装画面 登録

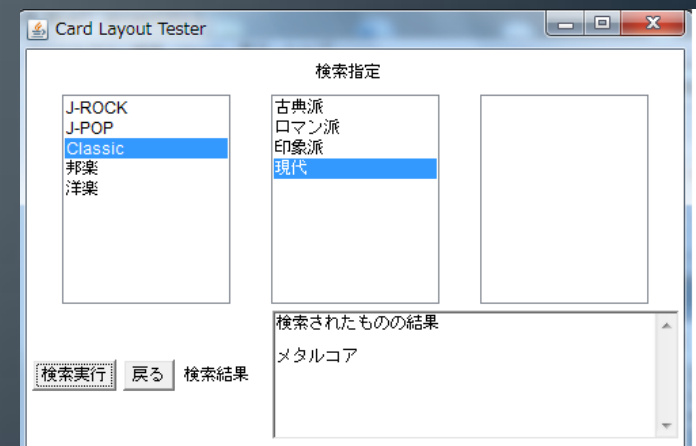


- ・スタート画面から検索、登録を選択でき登録画面に移動する。
- ・登録情報画面では大きなジャンルから登録したいジャンル選択していき、登録実行画面でテキストを入力する。

実装画面 検索



- ・スタート画面から検索、登録を選択でき検索画面に移動する。
- ・検索画面で大きなジャンルから登録したいジャンル選択していき、検索したいジャンルを選択したうえで検索を実行することで登録したテキストが表示される。



評価・考察

- メインのジャンル分けの部分のシステムは不完全ながら形にすることはできた。
- 入力画面のデザインの改良が足らず視覚的にわかりにくい
- 現状のSNSサービスにはない新たなツリー状のジャンル分けシステムが提案できた

まとめ

- 今までにはないようなソーシャルネットワーキングサービスを目指した
- 多くの人に利用されているソーシャルネットワーキングサービスを分析し、問題点、改善点を考えた
- ジャンルの登録、ジャンルの検索の主な機能は実装することが出来た

今後の課題

- 新たにソーシャルネットワーキングのシステムを作り、実装したジャンル分けの機能を合わせ一つのサービスにする
- ジャンル登録、検索画面のデザインの変更
- タグ付けによるジャンル検索システムの構築
- ツリー図の視覚化

最後に

- 以上で発表を終わります
ご質問があればお願いします